

C-1-50 気管支喘息発作の重症例に対する NPPV 療法の使用経験

医療法人かりゆし会 ハートライフ病院 呼吸器内科

○普天間光彦

【はじめに】 急性呼吸不全、特に慢性閉塞性肺疾患の急性増悪に対する NPPV 療法の有用性は多くの報告がなされているが、喘息発作に対する有用性の検討はこれからの課題と考える。今回我々は重症の喘息発作で急性呼吸不全となった4例に対して NPPV を使用したので報告する。

【対象・方法】 平成14年4月～平成16年3月までの2年間に NPPV を使用した喘息発作4例で平均年齢は59.8歳。男性3例、女性1例であった。3例は救急搬送、1例は外来受診。喘息発作に対する急性期治療と平行して NPPV を使用した。治療場所は全て救急室であった。NPPV は全例 S/T モードで IPAP 8～12、EPAP 4～5、呼吸回数20回の設定で施行した。

【結果】 4例とも、高度な高炭酸ガス血症に伴う意識障害を呈していたが、NPPV 開始後30分以内に意識レベルの改善を認め、挿管を回避することができた。NPPV 使用前の平均 pH 7.07 (6.91～7.25)、PaCO₂ 100.5 (78～127)、PaO₂ 129.0 (79～213)、改善後の平均 pH 7.33 (7.25～7.36)、PaCO₂ 48.0 (39～55)、PaO₂ 123.1 (72～220) であった。

【結語】 NPPV 療法が有用であった気管支喘息発作の重4例を経験した。NPPV 療法気管支喘息発作の集学的治療の一つとして有用であると考えられた。